令和７年度山口県産業労働懇話会の概要について

１　開催日時

令和７年１１月１０日（月）１３：３０～１５：００

２　開催場所

県庁４階 共用第３会議室

３　出席者

労働者代表　　長山委員、大塚委員、倉重委員、田中委員
使用者代表　　三原委員、宮川委員、中野委員、坂本委員
学識経験者　　山根委員、佐々木委員、山野上委員
（以上１５名中１１名出席）

４　内容

「若者や女性にも選ばれる雇用環境について」をテーマとして意見交換を行った。

≪主な意見等≫

・過去に女性配置のなかった部署への女性の進出が見られる一方、ロールモデルがいないために自分のキャリアパスが想像できず不安だという声を聞いた。こうした不安を抱える若い人を支援する、ロールモデルとなる人々をいかに早急に育成するかが重要である。
・補助金等の各施策について、実際の内容を末端まで周知できているのか。また、女性のロールモデルについて、能力の高い人でも謙虚で遠慮がちであり、意識変容は難しい。山口県は自己評価の低い人が多く、もったいないと感じる。
・企業でも女性、若年層、高齢者にスポットを当てた労働環境改善をしていくと、すべての労働者に良い労働環境につながるとの視点で、若者や女性というテーマは近年頻繁に扱われている。労働環境に対する支援がどこまで可能かという予算の話にもつながるが、引き続き発信していきたい。
・男性は育休が終わっても元の職場に戻りやすいが、女性は元いた職場に戻りにくく、時短を希望し、退職に至る方が多い。使用者側も戻ってきてくれる方に対し、もう少し支援の手を差し出してはいかがか。また、県、国等とともに支援や制度を考えていけたらと思う。
・使用者側、行政も策を尽くしていると思うが、労働者側が若干疲弊しており、自分たちの雇用環境を若手に勧めにくいと感じている。雇用促進のためには、使用者、行政だけでなく、労働者側が働き方を改革し、一線で動いていくべきではないかと思う。
・女性の現場社員も増えているがすべての施設が女性を受け入れる形となっておらず、大規模な設備改修が必要であるため、そのあたりの補助等支援をお願いしたい。また、女性からの意見聴取について、社外取締役（女性）とのヒアリングを設けており、女性同士での意見聴取を第三者的な立場から経営層へ提案するのも有効であると考える。また雇用問題の場合、街づくりに絡んでもらわないと、クリアできない問題も多々ある。
・若い方に定着してもらうためには、休み等働きやすい環境を整えたうえで賃金や福利厚生を充実させないと魅力ある会社として選ばれない。県内大学生と話す中でも、アルバイトはされても就職先は県外へと語る学生が多い。魅力ある職場づくりについて、一つの企業や地域だけでなく、もっと多方面と協力して進める必要があると感じる。

・当社でも社会保険上の扶養の範囲内に収めたいがための女性の働き控えが起きており、非常にもったいないと感じた。また、今後 130 万の壁がどうなっていくのか知りたい。
・「働き方改革」の推進を否定するわけではないが、休ませないといけない一方で、働きたい、自己実現したい、会社のためになりたいという声もある。ワークライフバランスという言葉もあるが、あまりにも強制的になってはいけない、中庸的な落としどころはないものか。
・多様な人（もっと働きたい人、メンタルの弱い人）がいることをご理解いただき、その人に合った仕事しやすい環境を作っていただきたい。
・大学生に対し、他県に興味を持つ前に自県の仕事に興味を持ってもらえるよう、一年生から参加できる地元の就職ガイダンスを継続して開催していただきたい。企業が集まることで、学生側が県内企業の可視化が行え、興味の湧いた所をより早い段階から調べていく機会にもつながるメリットが期待できる。
・産後の疲れやメンタル不調に対する支えがしっかりないと、女性が社会に戻っていく力も回復しにくい。育児をしながらも余裕のある仕組みがもっと欲しいなと感じる。
・世間ではマルチタスクを求められることが多いが、発達に障害のある方などはマルチタスクに対応しづらく、その人固有の突出した資質も活かされず、もったいなく思う。そうした資質に偏りのある人が輝ける社会があると良いと思うし、そうした特化した部分を持つ面白い人たちが集まる山口県みたいになると素敵だと思う。